

※4(1) まいど！ 倫理が大切です。白紙白紙に申し訳がつかないです。  
どうなんですか、何でもかきかき、きかきかきかき

今週の

倫理

4月のテーマ | 一貫不怠

草々運ぶアホ鳥

2022. 4. 23～4. 29

1278号

飽きっぽくて何をしても長続きしない状態、またそのような人を「三日坊主」といいます。実際に、一つの物事を続けようと心に決めたのに、すぐにやめてしまった経験のある人も多いのではないのでしょうか。

オーダー家具を製造販売するM氏は、自宅前の道路にあるゴミステーションを厄介者扱いしていました。特に夏場は生ゴミの臭いがひどく、M氏は行政にゴミステーションの移設を交渉しましたが、却下されてしまったのです。

そこで倫理研究所の研究員に倫理指導を受けた際、ゴミステーションを別な場所に追いやる方法はないかと、率直に聞いてみました。すると、「喜んで（ゴミステーションを）迎え入れてください」とアドバイスされたのです。氏は、期待した返事がもらえず、がっかりしてしまいました。

しかし、いくら落胆したところでゴミの臭いが消えるわけではありません。日が経つほどにゴミステーションの存在に我慢できなくなってきました。

幾日か思い悩んだ末、ただ悩んでいても状況は好転しない～と思い、所属の倫理法人会の活動でも行なっている清掃に取り組んでみることにしました。M氏は、社員には社屋の掃除を毎日するようにと強く言い聞かせていたのに、自分は「三日坊主」だったことを思い出したのです。

清掃業者のゴミ回収が終わった後、生ゴミの腐敗物で汚れた箇所を、水で洗い流してみると臭いが半減しました。少しはマシ



## 福を呼んでくれた ゴミステーション

になっただけで、何の得にもならないではないか」と思い、再び放置してしまいました。しかし、水洗いをするだけでも清々しい空間になったことが忘れられず、清掃を続けることにしました。

一カ月後、「私にもやらせてください」と近隣に住む人から声をかけられました。このゴミステーションを利用してはいるにもかかわらず、汚れている様子を見て見ぬふりをしていたといえます。

周囲の人の役に立っていたことに喜びを感じたM氏は、洗剤とデッキブラシを用意し、本格的に清掃を始めました。その後、一日も欠かさず出勤する前にゴミステーションの清掃を続け、九年が経過しました。そんなある日、氏の会社に見知らぬ人が訪ねてきて、婚礼家具を新調したいという依頼がありました。

M氏が、大手家具店が林立する地域で、なぜ当社を選んできたのかと尋ねると、その人は通勤時にM氏の家の前を通っていて、熱心に清掃に取り組む姿を見て感心していたと答えました。

そして、「この会社にオーダーしたら、嫁入りに相応しい家具を造ってくれると実感したので」と言葉が続けたのです。

「続けるといっても、実は、繰り返しかえし繰り返して同じことを反復するだけである」（『純粋倫理原論』）

結果的に福を運んでくれたゴミステーションに感謝の気持ちを含めて、M氏は今日も喜んで清掃に取り組んでいます。